

## 再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：環境安全・防災課  
担当課長名：渡辺 学

事業名	重要物流道路 主要地方道築館登米線（仮称）栗原IC	事業区分	地方道	事業主体	宮城県
起終点	自：宮城県栗原市築館萩沢 至：宮城県栗原市築館萩沢			延長	2.2 km
事業概要	みやぎ県北高速幹線道路は、宮城県北地域における地域間交流の促進を図る地域高規格道路であり、東北縦貫自動車道と三陸縦貫自動車道を相互に連絡することで、平常時・災害時を問わない安定的な輸送の確保が図られる。本事業により、本路線と東北縦貫自動車道を接続することで、整備効果の増大を図る。				
H30年度事業化	都市計画決定なし	R1年度用地着手	R2年度工事着手予定		
全体事業費	約51億円	事業進捗率	約9%	供用済延長	— km
計画交通量	3,300台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) —	総費用 (残事業)/事業全体 -/61億円 事業費：-/43億円 維持管理費：-/18億円	総便益 (残事業)/事業全体 -/72億円 走行時間短縮便益：-/60億円 走行経費減少便益：-/10億円 交通事故減少便益：-/2.0億円	基準年 平成30年	
感度分析の結果	(事業全体) 交通量：B/C=1.1~1.3(交通量±10%) 事業費：B/C=1.1~1.3(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.0~1.4(事業期間±20%) (残事業) 交通量：B/C=—(交通量±10%) 事業費：B/C=—(事業費±10%) 事業期間：B/C=—(事業期間±20%)				
事業の効果等	・宮城県北地域における東西連携の強化し、産業振興、文化交流、地域開発の促進等が期待 ・東北縦貫自動車道と三陸縦貫自動車道を結び、復興や平常時・災害時の効率的な人流・物流を支援				
関係する地方公共団体等の意見	・H30.9月及びR1.10月に地元説明会を開催し、周辺住民と合意形成を図っている。 ・栗原市や期成同盟会から早期整備の要望を受けている。				
事業評価監視委員会の意見	事業継続を妥当と認める。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	—				
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地取得率0%、事業進捗率約9%				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	早期完成を目指し、設計、用地買収、工事を推進していく。				
施設の構造や工法の変更等	跨道橋の掛け替え数の減、地盤改良や法面对策工の見直し等により、総コストの縮減に努めていく。				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。				
事業概要図					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。